

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902039
法人名	有限会社 道
事業所名	グループホーム あしたの風
訪問調査日	平成21年3月11日
評価確定日	平成21年5月22日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1471902039
法人名	有限会社 道
事業所名	グループホーム あしたの風
所在地 (電話番号)	神奈川県横須賀市佐原 3-4-22 (電話) 046-837-8961

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年5月22日

【情報提供票より】(21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火建築造り
	2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年2月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療生協 衣笠診療所
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは三浦半島の南東部にあり、京急本線北久里浜駅からバスで5分、バス停より徒歩3分と交通の便もよい。1階がデイサービスと居宅介護支援事業所で、また近くに法人の運営する訪問介護事業所がある。法人はこれらを複合機能老人福祉施設と位置づけ、地域に根付いた介護サービスを展開している。施設長は地域参加だけでは地域の協力は得られないとして、職員によるゴミ集積場の清掃等、事業所としての地域貢献を視野に入れた地域との関係強化を目指している。理念に基づき、職員は利用者を家族として迎え入れ、「世話をやき過ぎず、離れ過ぎず」利用者との適切な距離感を大切に介護を実践している。穏やかな雰囲気の中でゆっくりと時が過ぎてゆく家庭的な雰囲気を持ったホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は、避難訓練における地域住民の参加と、災害対策としての備蓄の準備であった。運営推進会議等を通じ地域住民とも充分協議し、事業所としての方向性を示している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、施設長、管理者から評価の意義が説明され、職員全員の意見聴取を通して、管理者がまとめた。結果は職員に説明され、回覧も行われた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地区の4グループホーム共同での会議が年2回、当ホーム単独での会議が年4回実施されている。会議内容はホームの状況報告に止まらず、ターミナルケアに対する意見交換、防災問題の検討、市に対する要望等、重要事項が検討されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>職員は家族の来訪や行事への参加時に意見収集に努めている。またクリスマス会等、家族同士の集まりの場を提供し、意見交換できる仕組みを作っている。重要事項説明書で苦情相談窓口、処理手順の説明をすると共に、ユニット入口に掲示している。意見箱も設置している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者一人ひとりが町内会に加入し、夏まつり、運動会、敬老会に参加している。中学校からの体験学習の受け入れ、小学校の文化祭への参加等、学校との交流も多い。習字、音楽演奏を始めとする地域ボランティアの協力も多く得られている。週2回、事業所の職員によるゴミ集積場の清掃を実施している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分として自分を生きる」「共に生きる」「より良い明日を生きる」を理念として掲げ、利用者の地域生活の継続支援を図っている。施設長は地域参加だけでは地域の協力は得られないと考え、事業所としての地域貢献を視野に入れて地域との関係強化を目指している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎日の朝礼、申し送り時に理念を確認している。管理者は共有できるように、折りに触れ理念について現場のケアを通じて助言・指導している。理念はユニットの入り口に分かりやすく掲示している。職員の入職時ガイダンスで最初に説明される。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者一人ひとりが町内会に加入し、夏まつり、運動会、敬老会に参加している。中学校からの体験学習の受け入れ、小学校の文化祭への参加等、学校との交流も多い。習字、音楽演奏を始めとする地域ボランティアの協力も多く得られている。週2回、事業所の職員によるゴミ集積場の清掃を実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価および外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、施設長、管理者から評価の意義が説明され、職員全員の意見聴取を通して管理者がまとめた。結果は職員に説明され、回覧も行われた。前回の改善課題については、施設長、管理者、職員が一体となって改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の4グループホーム共同での会議が年2回、市職員2名、民生委員2名、地域包括支援センター2名の参加の下、開催されている。当ホーム単独での会議が年4回、家族代表、民生委員参加の下、実施されている。会議内容はホームの状況報告に止まらず、ターミナルケアに対する意見交換、防災問題の検討、市に対する要望等、重要事項が検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の連携の他、市のグループホーム連絡会に加入し、会議、研修を通じて市職員と積極的に連携している。施設長は諸手続で市役所を訪問する際に、市担当者と面談し、状況報告、意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的および個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には職員が積極的に声をかけ、利用者の様子を伝えている。毎月の請求書発送時に近況を知らせるメモや写真を同封している。体調に変化が見られた場合には都度、電話で連絡している。金銭管理については、個人別の出納帳を作成し、家族の来訪時に確認印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時や行事への参加時に意見収集に努めている。またクリスマス会等、家族同士の集まりの場を提供し、意見交換できる仕組みを作っている。苦情相談窓口、処理手順の説明は重要事項説明書でしていると共に、ユニット入口に掲示している。意見箱を設置している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は利用者全員の馴染みとなり支えてゆくことを心がけており、職員の誰が抜けても、他の職員がカバーできる体制を築いている。不測の事態が発生した場合は、法人内の介護事業所からのサポートを受けることも可能である。法人内の異動はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験、成長に応じ、県社協および市グループホーム連絡会のリーダー研修、実践者研修、交換研修等に参加している。外部研修の情報は提示され、積極的に希望者を募っている。受講後は報告書を提出し、他の職員に回覧して内容を共有している。新人には基礎研修およびOJTが計画的に行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	44事業所が参加する市のグループホーム連絡会に加入し、研修会等を通じて、積極的に職員間の交流を図っている。施設長、管理者は地区の介護事業所が参加する三浦遊学会に参加し情報交換、意見交換を行い、同業者、関係機関との交流を深めサービスの質の向上に結び付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学、自宅面接、1階の通所サービスの利用を経て徐々に馴染めるよう工夫し、入居に至っている。体験入居も可能である。入居時は家族の協力を得て馴染みの物の持ち込み、居室の環境を整え、精神的混乱が無いよう取り組んでいる。落ち着かない時は、利用者の話を納得がゆくまで傾聴し、不安を取り除いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から料理、戦争中の体験、風習等を学んでいる。利用者は「いつもおいしいわ」と職員に感謝の言葉を述べている。また職員の元気がないときは、励ましの言葉を掛けてくれることもある。利用者自身がリードして職員と一緒に歌を歌うこともある。職員、利用者は喜怒哀楽を共にする関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時はアセスメントシートを活用し、様々な角度から利用者と家族の意向や希望を把握し、職員間で情報を共有している。入居後は会話を通じて常に一人ひとりの意向の把握に努めている。意思の伝達が困難な利用者については、日々のかかわりの中での声掛けを通じ、その表情から読み取り意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員全員参加によるグループホーム会議で介護計画書を作成している。利用者、家族の意見を反映させると共に、主治医の指示・意見を取り入れ、総合的な介護計画としている。計画書のサービス内容の項目には、職員はもとより、家族、主治医の役割も明確に位置づけている。職員は計画書の援助目標を常に意識した支援を行い、経過記録を記載している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>通常6ヶ月に1回の介護計画の見直しを実施している。状態に変化が生じた場合は都度の見直しを実施している。職員が記載した経過記録および活動日誌から必要事項を管理者がまとめグループホーム会議に提示し、それをもとに職員全員で検討している。医療機関の指示、家族の意思も見直しに反映している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階は法人が運営するデイサービスとなっており、共同での行事開催等の協力体制ができています。医療連携体制加算の指定を受けており、看護師に24時間連絡が取れる。1階のデイサービスに勤務する看護師が週に1回グループホームを訪問し健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人および家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の了解の下、事業所の協力医療機関が主治医となっているが、専門医院、歯科医院は利用者の希望により選択している。内科医と精神科医が月2回、歯科医は随時往診している。通院は基本的には家族対応であるが、必要に応じ職員による通院支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医等が終末期の兆候があると判断した段階で、重度化した場合における対応について利用者家族と同意を取り交わし、利用者、医師、事業所で方針を共有する。家族の意向、協力、医療機関との連携等、条件が整えば、重度化した場合でも、ホームにおいて継続生活できるようサービスを提供するとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時の声かけ、おむつ交換時のかたづけ等は、まわりの人に気づかれないよう、さりげなく行われている。個人情報が含まれる記録や資料等は鍵の掛かる事務室に保管されている。職員が居室に入る時には必ず利用者の了解を取る等、プライバシーには充分配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、それにこだわることなく、できるだけ本人のペースに合わせた支援を行っている。これまでの生活習慣からすぐ横になりたがる方には、朝の掃除後速やかにベッドメイクを行い、対応している。リビングで過ごす利用者が多く、利用者同士楽しいおしゃべりをしながら過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に応じて調理、配膳、後片付け等を職員と一緒にやっている。BGMを流し、職員が利用者と同じテーブルにつき、会話を楽しみながら同じ食事を取っている。献立は、利用者の意見も聞き決めている。食材は毎日、職員が近くのスーパーに買い物に出かけている。誕生日会では本人の希望の料理や手作りケーキ等が準備される。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の時間帯に行われており、利用者を2組に分け、週3回の入浴が確保されている。希望する利用者は入浴日でなくても入浴することが可能である。現在、入浴したがない方はいない。浴室内はトイレと汚物洗濯槽があり、清潔で便利な構造になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事が得意な方は、モヤシのひげ取り等の食事の準備、洗濯物たたみ等を職員と共に行っている。レクリエーションでは、習字、塗り絵、カレンダー作り等を楽しんでいる。ボランティアによるハーモニカ、ギター等の演奏会も頻繁に行われている。地域行事への参加、小、中学校との交流も気晴らしとして実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近所の公園に散歩に行ったり、買い物に行ったりする機会を作っている。月に1度は外出行事を催し、初詣、お花見、しょうぶ園等に行き、全員で楽しんでいる。また敬老会、夏祭り、町内の運動会等の地域の行事、小学校の文化祭、運動会見学等の学校との交流で外出の機会もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者および全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関およびユニット入口は安全面を考慮し、入居時に家族に説明し、了解を得て施錠している。玄関前がすぐ道路に面しており、車の往来も多いことからやむを得ない危険防止の処置である。居室に鍵は付いていない。職員は利用者のくせや傾向を理解すると共に、意向の把握に努め外出希望に沿う支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。地域の住民の参加が難しいため、職員が次回の町内会の防災訓練に参加することが決まっている。消防署への直通通報装置を設置し、消防署より年1回の保守、点検を受けると共に、防火の指導を仰いでいる。町内会において緊急時の備蓄体制がある。施設長は、折りに触れ地域協力を呼びかけている。		災害等に備え、引き続き地域との連携を図ることが期待される。また、災害時の備品を事業所に備えてあるとよい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎回記録している。嚥下障害のある利用者に、きざみ食が提供されている。塩分量の制限の必要な方にはチェックとコントロールを実施している。管理者は他の介護施設の栄養士から栄養バランス、献立のアドバイスを受けている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、2箇所テレビ、ソファを備え、生け花、ひな祭りの貼り絵で季節感を採り入れている。手作りカレンダー、利用者の書いた習字、旅行の写真等も飾られ、利用者がゆっくり居心地よく過ごせるように工夫している。ほとんどの利用者はリビングで皆と過ごす時間を好んでいる。昼食時にはオルゴール音のBGMを流し心地よい時間帯を演出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、防災加工のレースカーテン、クローゼット、クーラー以外には事業所が設置した備品はなく、利用者と家族が自由にレイアウトしている。たんず、マスコット、衣装ケース、写真、仏壇等馴染みの物や好みものが自由に配置され、利用者が居心地良く暮らせる空間となっている。		